



KOURAKUEN
HOLDINGS



平成 29 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社 幸楽苑ホールディングス
代表者の役職名 代表取締役社長 新井田 傳
(東証第一部 コード番号 7 5 5 4)
問い合わせ先 専務取締役 武田 典久
T E L 0 2 4 - 9 4 3 - 3 3 5 1
<http://www.kourakuen.co.jp/>

特別損失の計上、第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異 及び通期業績予想の修正、剰余金の配当(中間)及び期末配当予想の修正 に関するお知らせ

平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の決算におきまして、特別損失を計上するとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成 29 年 5 月 12 日に公表いたしました第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想、剰余金の配当(中間)及び期末配当予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせ申し上げます。

記

1. 特別損失の計上について

当社グループは、現在国内 32 都道府県に出店しておりますが、経営資源の効率化及び収益性の向上を図るべく、出店エリア・出店形態等の見直しを検討してまいりました。今般、今後の長期的な成長が見込めない 52 店舗の閉鎖を決定し、将来の成長が見込まれる出店エリア・出店形態等に経営資源を集中してまいります。

これにより、第 2 四半期累計期間におきまして、店舗閉鎖に伴う減損損失 407 百万円及び店舗閉鎖損失引当金繰入額 123 百万円を、特別損失として計上することになりました。

2. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異について

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

(1) 連結業績予想値と実績値との差異

(単位：百万円)

(単位：円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	20,522	445	405	165	11.20
実 績 値 (B)	19,605	△181	△180	△640	△43.22
増 減 額 (B-A)	△916	△627	△585	△806	—
増 減 率	△4.4%	—%	—%	—%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	19,476	625	767	560	34.24

(2) 個別業績予想値と実績値との差異

(単位：百万円)

(単位：円)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	7,236	265	125	8.47
実績値 (B)	7,207	145	△247	△16.71
増減額 (B-A)	△29	△120	△373	—
増減率	△0.4%	△45.3%	—%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績	7,328	824	591	36.18

(注) 当社は、平成27年7月1日を効力発生日として、吸収分割方式による会社分割を行い、持株会社体制へ移行しております。

3. 平成30年3月期通期業績予想の修正について

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

(単位：円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	40,983	879	822	200	13.50
今回修正予想 (B)	38,819	20	5	△674	△45.55
増減額 (B-A)	△2,164	△858	△817	△874	—
増減率	△5.2%	△97.6%	△99.3%	—	—
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	37,803	147	330	154	9.91

(2) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

(単位：円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	14,500	592	337	22.80
今回修正予想 (B)	14,185	279	△168	△11.38
増減額 (B-A)	△315	△313	△506	—
増減率	△2.1%	△52.8%	—%	—
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	14,423	1,362	963	61.80

(注) 当社は、平成27年7月1日を効力発生日として、吸収分割方式による会社分割を行い、持株会社体制へ移行しております。

4. 差異が生じた理由及び通期業績予想修正の理由について

(1) 第2四半期累計期間業績予想値と実績値の差異について

(連結業績)

売上高につきましては、国内直営新規出店は計画30店舗に対して実績24店舗となりました。また、昨年の店舗での異物混入による食の安全・安心に関する問題や天候不順等が影響し、既存店売上高前期比が計画101.6%に対して実績98.0%と計画値を3.6ポイント下回ったことにより、当初計画を下回りました。

利益面につきましては、既存店売上高等の未達により売上総利益が計画対比5.1%減少したことに加え、就労コントロールによる人件費等の低減を図ったものの水道光熱費の単価及び使用量の増加により、営業利益・経常利益は当初計画を大幅に下回り、上記の特別損失等の計上により、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても当初計画を大幅に下回りました。

(個別業績)

グループ子会社の売上高の減少及び製造コスト(経費)の増加等により、売上高・経常利益ともに当初計画を下回りました。また、上記の特別損失の計上により、四半期純利益につきましても当初計画を下回りました。

この結果、前回公表の第2四半期累計期間の業績予想に対して、連結・個別ともに差異が発生いたしました。

(2) 通期業績予想の修正について

当社グループが属する外食産業におきましては、消費者の節約志向や人手不足、他業態との競争は一段と激化し、引き続き厳しい経営環境が続くことが見込まれます。

第3四半期以降の見通しにつきましては、ラーメン事業への原点回帰を推進し、新たな商品の開発、品質(商品・サービス)改革の強化を推進し、既存店客数の改善に努めてまいります。

通期の業績見通しにつきましては、国内直営新規出店は下期当初計画20店舗に対して11店舗、既存店売上高前期比は下期当初計画104.5%に対して101.0%を見込んでおります。また、利益面につきましては、就労コントロールによる人件費の低減及び新規出店数の抑制により販管費の低減(上期実績対比4.0%減、当初下期計画対比5.0%減)を見込んでおります。

この結果、第2四半期累計期間の業績を勘案するとともに、第3四半期以降の経営環境の状況から、前回公表の通期業績予想に対して、連結・個別ともに上記のとおり修正いたします。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

5. 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正について

(1) 剰余金の配当（中間配当）について

	決定額	直近の配当予想 (平成 29 年 5 月 12 日公表)	前期実績 (平成 29 年 3 月期)
基準日	平成 29 年 9 月 30 日	同 左	平成 28 年 9 月 30 日
1 株当たり配当金	5 円 00 銭	10 円 00 銭	10 円 00 銭
配当金の総額	74 百万円	—	148 百万円
効力発生日	平成 29 年 12 月 1 日	—	平成 28 年 12 月 1 日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 期末配当予想の修正について

基準日	1 株当たり配当金		
	第 2 四半期末	期 末	年 間
前回予想	10 円 00 銭	10 円 00 銭	20 円 00 銭
今回修正予想	10 円 00 銭	5 円 00 銭	10 円 00 銭
当期実績	5 円 00 銭	10 円 00 銭	20 円 00 銭
前期実績 (平成 29 年 3 月期)	10 円 00 銭	10 円 00 銭	20 円 00 銭

(3) 修正等の理由について

当社は、株主に対する配当方針を重要政策のひとつと考えており、会社の競争力を維持・強化して、株主資本の拡充と同利益率の向上を図るとともに、配当水準の向上と安定化に努める方針であります。内部留保による資金は、新規店舗出店に充当することを予定しており、将来的には収益性の向上を図り利益還元を行う予定であります。なお、当社は、中間配当と期末配当の年 2 回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当等を決定する機関は、会社法第 459 条の規定に基づき取締役会であります。

当期の中間配当につきましては、1 株当たり配当金 10 円を予想しておりましたが、第 2 四半期連結累計期間の業績を勘案し、1 株当たり 5 円とさせていただきます。また、期末配当予想につきましては、通期の業績予想を勘案し、1 株当たり 5 円に修正いたします。

以 上